

「裏の雪爪」と称された

春嶽の禪師、

鴻雪爪



鴻雪爪肖像（「方外功臣鴻雪爪」より）

福 井藩初代藩主、結城秀康の最
初の菩提寺として知られる孝
頭寺。幕末にこの寺の住職を務め
た名僧、鴻雪爪は福井藩主、松平
春嶽と関係の深い人物です。

雪爪は、文化11（1814）年1
月1日、備後国（現在の広島県）因
島に生まれました。6歳で出家。そ
の後、府中（現在の越前市）の龍泉
寺等で修業し、弘化3（1846）
年、33歳で大垣の全昌寺の住職とな
りました。その名声は全国的に高く、
老人では宇治興聖寺の回天、若手
では大垣全昌寺の雪爪」と言われた

めて説き入り、私は陰に裏面より
薫陶した」と述べています。春嶽は
小楠に藩政改革を託し、雪爪は裏方
として支えていたのです。この連携
は続き、春嶽の政事総裁職時代に
は、小楠が春嶽のブレーンとして表
から、雪爪が文通や藩の要人を通じ
て、陰から助言を行ったといわれて
います。

といえます。

安政5（1858）年、45歳の時、
雪爪は春嶽の要請に応じ福井城下の
孝頭寺の住職となります。当時、福
井藩は、春嶽主導の藩政改革を進め
ており、雪爪が入山した翌月には、
熊本から横井小楠を政治顧問として
迎えました。雪爪は、藩政改革に協
力し、家老、本多修理をはじめ中根
雪江、三岡八郎（後の由利公正）ら
と盛んに論じあい、彼らを啓発した
といえます。

文久3（1863）年3月、春嶽
は政事総裁職を辞し、福井へ戻りま
す。春嶽はしばしば雪爪を訪ね、禪
の指導を受けたといわれています。参禅の
問答の中で、春嶽は、「仰げばいよ
いよ高く、鑽ればいよいよ堅し」（物
事の本質は、それを実際に触れなけ
れば分からない）と気付いたと伝
わっています。慶応3（1867）
年12月、王政復古の直後に新政府と
旧幕府側が対峙した際、春嶽は衝突
回避のため沈着・果断に動きますが、
これはまさに雪爪から禅の奥義を得
ていたから為せたのではないでしょ
うか。

事業に尽力します。多くの人材を抜
擢してきた春嶽。雪爪もまた春嶽に
見出され、表舞台に立ち活躍した一
人なのです。



松平春嶽肖像
（福井市立郷土歴史博物館蔵）

関連史料・ゆかりの地

孝頭寺



福井藩祖結城秀康の菩提寺として、慶長6（1601）年に建立された孝頭寺。
鴻雪爪が住職を務めていた時には、由利公正や堀正直、松平正直など明
治に入っても活躍した優秀な人物がしばしば山門をくぐったということです。

【住所】福井市足羽1丁目7-16（福井鉄道足羽山公園口駅より徒歩5分）

参考資料等

澤井常四郎『方外功臣鴻雪爪』三原図書館、三上一夫『幕末維新と松平春嶽』明治維新史学会
福井新聞社編『福井人物風土記』昭和書院